

平成 28 年度第 1 回
八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

開催日時	平成 28 年 7 月 14 日（木） 午後 2 時～午後 3 時 40 分
開催場所	大田原市役所 南別館 2 階会議室
出席者	<p>【委員 16 名】 小林会長、玉木副会長、増山委員、中村委員、吉岡委員、室井委員、村山委員、川崎委員、矢内委員、野口委員、緑川委員、尾亦委員、鈴木委員、吉田委員、大藤委員、石井委員</p> <p>【欠席委員 7 名】 北島委員、岡野委員、屋代委員、荻原委員、廣川委員、大野委員、押田委員、</p> <p>【オブザーバー 9 名】 那須塩原市、那須町、那珂川町、棚倉町、矢祭町、埴町、大子町の担当係長等</p> <p>【事務局 4 名】 総合政策部長、政策推進課（3）</p>

1 委嘱状交付

委員の任期は平成 28 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの 2 年間

2 大田原市長挨拶（総合政策部長代読）

3 会長、副会長選出

会長に小林委員、副会長に玉木委員を選出

4 内 容

(1) 八溝山周辺地域定住自立圏の取組について

資料 1 により事務局説明

(説明要旨)

- ・定住自立圏構想の概要
- ・八溝山周辺地域定住自立圏構想の取組経緯
- ・八溝山周辺地域定住自立圏構想の推進体制
- ・共生ビジョン懇談会提案事項の事業化・共生ビジョンへの反映方法
- ・近隣の定住自立圏構想（那須定住自立圏、しらかわ定住自立圏の取組）の概要

○ 質疑等

- | | |
|-----|---|
| 委員 | 資料 1 の 8 ページNo.5「子育て支援事業」の事業費が「集計中」と記載してあるが、資料 2 の 7 ページには「93,428 千円」との記載があるがどういうことか。 |
| 事務局 | 資料 2 についてはこの後説明しますが、今年度、共生ビジョンをこのような形に改訂したいという資料ですので、数字については仮置きということでお考えいただきたい。 |

(2) 八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンの改訂について

資料 2 により事務局説明

(説明要旨)

- ・平成 26 年 10 月に八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョンを策定し、3 年目を迎える。昨年も改訂作業を行ったが、新年度になって予算化した事業費などを追加記載する、軽微な文言の修正を行う作業となるので、将来像など大きな変更を行うものではない。
- ・平成 28 年度の改訂で、32 ページの「一般廃棄物共同処理事業」と 40 ページの「グリーンツーリズムの推進」を新たに加えたい。

○ 質疑等

- | | |
|-----|--|
| 会長 | 「改訂」という言葉は、全面的な枠組みを変える意味に捉えられるが、事務局の説明では、事業の柱はそのままで、そのなかで事業の展開のための小さな部分を直すという理解でよろしいか。 |
| 事務局 | そのとおりです。 |
| 委員 | 共生ビジョンは 5 年間の期間とのことだが、総枠の予算が決まっているのか。そこからの変更ということなのか。 |
| 事務局 | 予算につきましては、事業の実施に対して特別交付税が中心市で約 8,500 万円を上限に、連携市町で 1,500 万円を上限に措置されることになるので、補助金のように、事業費が決まっているものではありません。また事業内容も 5 年間決められたものではありません。 |
| 委員 | であれば、大きな変更も逆に言えば可能なのか。 |
| 事務局 | そういうことになります。 |

(3) 意見交換

資料 3 により事務局説明

(説明要旨)

- 配布した資料は平成 26 年度、27 年度に共生ビジョン懇談会での提案事項をまとめたもので、事業への反映状況等事務局の回答も記載させていただいた。

この後の意見交換の参考としていただきたい。

この中から、「結婚支援事業」「放射性汚染物質対策」、「地域公共交通」、「道の駅の連携」、「サイクリングの振興」、「インフラ整備要望活動」についての検討事項を紹介した。

会長) 提案がどの分野に分類されるのかわかる場合とわからない場合があると思う。

具体的に資料 2 にある事業の柱に沿わなくてもいいと思っている。委員の方がその辺を厳密に整理できていなくても、最終的には行政側が予算化するなど整理をしてくれるので、所属団体、分野に関わらず、定住自立圏という枠組みの中で、こんなことはできないか、どんな視点からでも構わないので、発言をいただければと思う。

○意見交換

委員 資料 3 のNo.13 にあるとおり、昨年、八溝山周辺地域の携帯電話不通地帯の解消ということで提案させていただいた。行政が行うというよりは、民間の携帯電話会社へのアプローチという形になると思うが、予算も伴わず、八溝定住自立圏が要望という形でアクションが起こせないかと考えている。

それと、グリーンツーリズムの推進ということで記載があるが、観光協会としては、ぜひ進めていただきたいと思う。

受入農家の数が大田原市で約 80 軒、那珂川町で約 20 軒あるが、200 軒の受入農家がないとグリーンツーリズムの機能としてうまく回転していないと聞いているので、具体的な取組を進めていただきたい。

会長 携帯電話の不通エリアを市は把握しているのか。

また、市がやるべきことはあるのか。

事務局 大田原市を例にとると、合併後、須賀川地区に 2 本のアンテナを立てました。当時、国と市と携帯電話の事業者の 3 者で費用を負担する形をとりました。

ただ、このときは人が住んでいる地域ということで立てていただきましたが、人が住んでいない八溝山の麓となると不通エリアがあるのだろうとは思いますが、実際にはそこまで調査はしておりません。

委員 初めて聞いたが、携帯のアンテナを立てるのに自治体も負担をするのか。

事務局 通常は出さないが、携帯不感知地区には支援する制度がある。

委員 1 基あたりどれくらいの費用がかかるのか。

事務局 当時、2 基で約 3,000 万円 (1 基あたり約 1,500 万円) の予算だったと記憶しています。これを 3 者で負担しあうことになります。

会 長 大田原市では、人が住んでいるのに携帯が通じないエリアはあるのか。
事務局 具体的に申し上げますと、A社の携帯は通じるが、B社の携帯は通じないというエリアはたくさん存在します。

委員 民間事業者も費用を負担するので、民間事業者の合意が得られないと立てられないという状況です。

委 員 森林組合など山の中で仕事をしている人に、蜂に刺されたときのショックを防ぐためにエピペンを渡しているが、そういった方たちが病気やケガをした場合の通報の仕方などはどうなっているのか。

委 員 分野は違うが、山林労働者は携帯の不感知地区を事前に把握しているので、緊急のときには携帯が通じるところまで行って、通報することになっている。

会 長 携帯の方は市でもう少し調べていただき、次回の懇談会で情報提供をいただければと思う。

委 員 それとグリーンツーリズムの取組は進めていただきたいと思う。

委 員 資料2を見ると、やること、やらなくてはならないこと、やりたいけどできないことがたくさん書いてあり、事務局も大変だと思う。2年間経って結果が出ているような事業があれば紹介してほしい。

会 長 データがあって何か変わったことがあれば、紹介していただきたい。
事務局 8市町による取り組みで、国から毎年2億円弱の特別交付税が措置されます。何もしなければ0だったので、財政的な面で大きなメリットがあったと思っています。

委 員 初めての出席となるので、良くわかっていないが、イノシシ対策のために電気柵設置に対する補助のような事業も定住自立圏としての取組となるのか。

事務局 イノシシ対策に関しては、各市町共通の課題という認識はもっていて、平成26年度の事業として、イノシシがワナに掛かったことを通報する装置の共同購入を大田原市が各市町に呼びかけました。

委 員 しかし、有害鳥獣に関しては、国の補助金が別にあることから、共同購入に至らなかったという経緯がございます。

委 員 例えば、イノシシの電気柵設置に対する補助金が50%とした場合、残りの50%を定住自立圏で補てんしてあげるといったことは可能なのか。

事務局 可能ですが、有害鳥獣対策に関して、(定住自立圏とは)別の特別交付税措置があるので、定住自立圏の事業として取組めていないというのが現状です。

委 員 資料1の8ページにある健康増進事業でスマートフォンを使ったウォーキング推進事業に取り組んでいるが、これの成果を教えてください。

事務局 利用者が8,837人で圏域内の内訳は大田原市102人、那須塩原市37人、

那須町 17 人、那珂川町 17 人、棚倉町 13 人、矢祭町 4 人、埴町 3 人、大子町 16 人となっています。

これは、登録の際に郵便番号を入力することで居住地がわかるようになっていますが、1234-567 と入力しても登録ができてしまうため、居住地がわからない方が 6,000 人ほどいます。

委員 資料 2 の 40 ページにグリーンツーリズムの推進とあるが、滞在型、体験型というのが今の観光のテーマになっているので、ウォーキングサイトと連携した取組の実施を提案したい。

ウォーキングサイトで年間 300 万歩と提言されているが、達成した方は何人いるのか。

事務局 この場で情報を把握していませんので、次回、回答させていただきます。

委員 先ごろ、イギリスが EU から離脱することになったが、その一つの理由として移民が殺到したことが原因と言われている。

一方で、この地域では、業種によっては労働者が足りないという事態も起きていているので、外国人労働者の確保について考える場だけでももっていただけないかと考えている。

別な話になるが、資料 3 の No.17 でサイクルマップの作成、サイクルピットの設置に関して、昨年バンクーバーに行ったときの話になるが、誰でも自由に自転車を借りることができ、サイクルピットももちろんあり、更に応急用の修理工具が整備されていた。こういった取組が定住自立圏でもできないかと思った。

それから、那須塩原駅東口の整備について、那須塩原市に位置しているが、それぞれの自治体の住民の方が利用していると思うので、具現化に向けた検討を行っていただきたい。

最後に栃木県が平成 30 年の JR のデスティネーションキャンペーンの指定を受けた。観光の情報を発信する中で、定住自立圏として、定住促進に繋がるような情報発信もしていただきたいと考えている。

会長 様々な提案がありましたが、時間の都合もありますので、後で一括して事務局から回答をお願いします。

委員 国道 4 号線バイパスの早期整備について要望書を提出されたとのことだが、那須町から黒磯にかけての国道 4 号線は歩道に草が生い茂っている状態である。また、自転車を通る人も多くなっているため、何とかしていただきたいと思っている。

道路整備に関して何か明るい見通しはあるのか。

会長 この件に関しましても、後で事務局から回答をお願いします。

委員 出席者名簿の中で私の分野が「その他」に属している。分野に立脚した意見を言うのか、我々その他に属している委員は全てのことに對して意見

を言えるのか。所属が自治会だったら「地域自治」、社会福祉協議会だったら「地域福祉」とかの分け方があると思う。

会 長
事務局
委 員

意見自体は分類に関わらず、ご自由に発言いただきたい。

失礼しました。対応させていただきます。

特産品の開発に関して、大田原市が中心市で周りに連携市町があると思うが、ブランド化とその拡大に対して、実際に大田原市が果たしている役割は何か。

農産物ができる時季はどこも一緒だと思うので、特産品となると限られてきて、ブランド化の取組はかなり難しいのではないか。そのような中で、各市町でブランド化ができる体制づくりが必要ではないかと考える。

那珂川町は、独自で木質バイオバスの熱エネルギーを利用したうなぎの養殖、マンゴー栽培、或いは温泉とらふぐ、遊休農地を利用したホンモロコの養殖などで話題性も得た形で商品もできてきている。

そういったものを大田原市がこういった形でコーディネートする場を提供しているのか具体的な落とし込みがないような気がする。

ブランド化に向けた組織づくりに予算をつけていただき、新商品の開発となってくるのだらうと思う。

次に、グリーンツーリズムの推進に関して、八溝の地域は宝だと思っている。そんな中で大田原ツーリズムという民間会社と各市町の関係がどうなっているのか。その流れと仕組みを教えてください。

それらをクリアにしていけば、那珂川町で 20 軒の農家があるとのことだが、那須塩原市、大子町へも広がっていくのだらうと思う。

会 長
委 員

ありがとうございました。

福島県では JR のデスティネーションキャンペーンを 3 年間やっていて、今年の 6 月 30 日に終わったが、今後どのようにして観光 PR や誘客を図っていくのが課題となっている。

一昔前であれば、都心から大型バスで観光に来ていたが、今はスマートフォンで手軽に情報を収集できる時代なので、着地型観光にどのように取組んでいったらいいか、アドバイスを受けるとともに情報交換をしていければと考えている。

委 員

圏域内特産品販路拡大事業で大田原市産業文化祭の共同出店、アグリフードエキスポへの共同出展とあるが、周知、参加に関して要請文書などがあるのか。

事務局
委 員

大田原市から各市町の担当課を通して文書で依頼しています。

大田原市に来て印象に残っているのが、ハーモニーホールでのコンサートと栃木 SC の子供向けのスポーツイベント。ハーモニーホールがあることは大田原市に来て初めて知った。また、野球教室も開催されたようだが、

小学校を通じてイベントがあることを知った。

距離があるのでなかなか来ることはできないが、来ればいいところなので、そういったことを（連携市町の住民が）広く知る機会があればいいと思った。

委員長 ポータルサイトはいいものができているので、イベントの開催などを多く発信していただきたい。

ただ、検索する際に「八溝山周辺」までいれないと、サイトが出てこないのので、一日当たりの閲覧者数などを見て、改善をしてはどうか。

委員長 大子町から多くの住民が大田原市に買い物に来ている。また大子町にも病院はあるが、総合病院となると那須赤十字病院に通院する住民もいるので、広域的な公共交通についてもっと深く問題を掘り下げてご検討いただきたい。

また、ドクターヘリに関して、茨城と栃木で広域的に運行し、なかなか難しい面もあると聞いているが、検討を進めていただきたい。

委員長 八溝定住圏の取組が、地方創生の全国的なモデルケースとなるような事業が展開できればと思っています。

最近、外国人観光客の受け入れで、インバウンドということが言われていますけれど、おそらくこの地域の中でインバウンドが伝わる地域はないのでは。あっても実効性が低いと思われるので、逆にアウトバウンドの取組を考えてみてはどうか。

委員長 高齢者の自動車事故が多い。高齢者のマークもあるが目立ちにくい。であれば、目立つ色、黄色の車に乗るように推奨し、八溝定住の地域で黄色の車を見たら高齢者というようなことにならないかと思っている。

委員長 定住自立圏の目指す姿ということで、大都市圏の人の流れを食い止め、地方への人の流れをつくると書かれています。この資料3のNo.22に「空き家」の取組で、大田原市独自の取組状況として「空き家と耕作放棄地の調査を実施する予定です。」と記載されています。

これから定住を進める、また週末居住を進める上で、この調査の後、どのように進めていくのかお聞かせいただきたい。

副会長 八溝定住自立圏ということで、8つの市、町が集まっていることは非常にユニークなことであると思っている。

それぞれの市、町に特色、強みがあるので、それらをお互いに発信して、交流を盛んにしていくことが大切であると思っている。そういうことが、インフラ整備にもつながってくると思う。

この集まりがあってから、各市町に出かけるようになり、矢祭町の戸津辺の桜は見事なものであるが、栃木県の人にはあまり知られていない。また、大子町のもみじ寺も素晴らしく、その名前が知られるようになってき

たと思う。

これらはほんの一例だが、地域の強みを生かしてほしいと思う。

そんな中で産業文化祭の共同出店という事業があるので、ぜひ参加をしていただきたいと思う。

会 長

色々なご意見、ご提案ありがとうございました。

データで示したほうがわかりやすいものについては、後日ご報告という形で結構ですが、全体を通して、事務局から提案に対する考え方を伺いたい。

事務局

八溝定住自立圏の考え方を振り返りますと、まずは自分たちの市、町のことを知って交流を進め、そして圏域外から人を呼び込むことが大切であると再認識をしました。

何人かの委員からご意見のあった「情報発信」につきまして、ポータルサイトを構築した、アプリを開発したにとどまっている感じも受けるので、閲覧者数を分析するなり、ホームページ以外の情報発信について、特に「商圈」というワードも出ましたので、次回のビジョン懇談会までに考え方を整理し、ご回答したいと思います。

それと、道路整備に関しまして、交通ネットワーク調査を行っていますが、八溝定住自立圏として要望活動をしていった方がいいものがある一方で、従来から市、町が独自に要望活動し、補助制度を使った方が有利なものもございますので、これらを見極めた上で、要望活動を行っていきたいと思います。

また、那須地域定住自立圏の取組も進んでいますので、この懇談会で出された意見、提案の中で、八溝定住で取り組んだほうがいいもの、那須定住で取り組んだほうがいいものもございましたので、事務局を通じて、調整をしたいと考えております。

事務局

個別の内容につきまして補足させていただきます。

那須定住自立圏につきましては、観光、環境、公共交通の3本柱で取組を進めることになっています。

近日中に、那須塩原市、白河市、大田原市の中心市3市で意見交換を行いますので、本日のビジョン懇談会からのご意見、ご提案を踏まえて、こういった事業展開が可能なのかを含めて意見交換をしたいと考えています。

具体的に申し上げますと、那須塩原駅東口整備や那須塩原駅を起点とした観光などにつきましては、那須塩原市とよく調整、検討をしたいと思います。

また、グリーンツーリズムの推進に関しましては、各市町に農家民泊を受け入れてくれるようお願いをする段階でありまして、農家の方の協力が

得られれば、圏域として何らかの事業が展開できるようになるのではと考えております。

圏域内特産品の販路拡大につきましては、ブランド化などを行いたいと考えておりますが、現状では、大田原市産業文化祭への共同出店の事業のみにとどまっております。

空き家に関しましては、大田原市では、従来から空き家バンク制度がございましたが、移住・定住を見据えた制度の運用を行ってきていませんでしたので、大田原市独自の取組になりますが、本年度から首都圏への情報発信などを行っていく予定となっております。

まだまだ、説明が足りない部分もございますが、第2回の共生ビジョン懇談会時に考え方などを整理し回答させていただきます。

事務局

グリーンツーリズムの推進に関して、大田原市が他の自治体にどのように関与していくのかというご質問に関しまして、追加で説明させていただきます。

大田原市のグリーンツーリズムを推進するために、市が出資し、株式会社大田原ツーリズムという会社を立ち上げました。

大田原市としては、大田原ツーリズムと一緒に農家民泊を進めていきたいという気持ちがありますが、自治体によっては、宿泊業、旅館業、観光業が盛んなところもあり、そういったところのお客さんを奪いかねないと危惧される市町もございますので、よく調整を図りながら進めていきたいと考えています。

会長

事務局から全ての回答があったわけではありませんが、全体的な考え方などを説明していただきました。

足りないところは第2回共生ビジョン懇談会時に回答をいただけるということです。

以上で、意見交換を終了させていただきます。

9 その他

平成28年度第2回八溝山周辺地域定住自立圏共生ビジョン懇談会は、9月29日(木)午後1時30分から、大田原市役所南別館2階で開催します。